

令和4年度（2022年度）学校評価報告書

令和5年（2023年）3月7日

北海道教育委員会教育長 様

北海道紋別養護学校長 山 崎 淳 也 印

次のとおり令和4年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

「一人一人の主体的・協働的な学びを実現する教育活動の推進」 ○教育方針「一人一人の学びの質を高める教育」 ○経営方針「連携・協働する学校」

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
○低評価項目について	・全項目の平均値は教職員 3.42 であった。「効果的な会議運営」「業務の明確化、適正化、精選」「ヒヤリハットの蓄積と分析」等が低評価となった。	・自己評価なので、評価基準は人それぞれで、厳しく評価する人、印象に残っていることを評価する人など様々だと思う。厳しく物事を評価している人の意見を聞き取って改善することが大切である。また、ヒヤリハットは蓄積と分析で終わらず、より踏み込んで全体共有することが重要である。 （学校評議員） ・全項目の平均値は 3.50 であった。「地域の教育資源を活用した教育活動」「保護者主体の PTA 活動」等が低評価となった。（保護者）
改善方策	・ヒヤリハットについては、様式、蓄積、教職員への周知方法などを生徒指導部と寄宿舎保健部が中心となり検討する。決定した内容は学舎で共通理解を図り、全校で事故防止に取り組む。 ・効率的な会議運営に向けて、会議資料は事前に配付し、会議前に内容を確認することができるようにしている。各自で事前に配付された資料の内容を確認し、それぞれの職員が目的意識をもって会議に参加することができるようする。 ・会議時間は、現在行っている一つの会議時間45分を基準として今後も設定していく。寄宿舎においても、会議の目的に応じて適切に会議を設定することができるよう調整する。 ・業務の明確化、適正化、精選について、どこの部署が業務を担当するのか住み分けができていない業務がある。次年度に向け、分掌等業務の洗い出しと業務の精選を行い、どの担当がどの業務を担当するのか明確にする。 ・地域の教育資源を活用した教育活動については、次年度から設置する学校運営協議会において、地域と協働して取り組むことができる学習活動を探っていく。 ・PTA活動については、今年度は、花壇及びグラウンド整備、茶話会、また、直接的なPTA活動ではないが給食試食会等を実施することができたが、相手先の都合もあり、施設見学会は実施することができなかった。次年度は、感染症対策を徹底し、安心・安全な状態で少しずつPTA活動を充実させていく。	

○学校経営について	・平均評価点3.36だった。 ・学校教育目標の具現化に向け、教職員全体で取り組むことができたのではと推測される。	・教職員がしっかりと学校経営を行っていることが評価から理解することができた。(学校評議員) ・平均評価点 3.49 だった。(保護者)
改善方針	・各教職員が今年度以上に学校経営への参画意識をもち、全ての教職員が連携してカリキュラムマネジメントを推進する。	
○安心・安全な学校について	・平均評価点 3.51 だった。 ・今年度は、感染症対策を徹底し、様々な学習活動、行事、PTA 活動の再開に取り組むことができた。	・今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった。ひまわり学園内でも戸惑いがあったが、学校のスピード感をもった対応や、随時の情報共有に対して評価をしている。感染症対策を短期間のうちに分かりやすく提示していただいた部分も大きかった。(学校評議員) ・平均評価点 3.55 だった。(保護者)
改善方針	・コロナ禍以前同様の学習活動を設定することはまだ難しいが、内容を工夫し、少しずつ以前の形に近付けることができるよう計画する。 ・次年度も基本的な感染症対策や適切な健康観察を行い、学びの継続を図る。 ・次年度は、感染症対策を徹底した上で様々な学習活動や行事などを計画し、ウィズコロナ、アフターコロナにおける取り組みを推進する。	
○専門性に基づいた教育について	・平均評価点は3.39だった。 ・ICTを積極的に活用することができていないという課題があがった。	・平均評価点3.49だった。(保護者)
改善方法	・ICTの活用については、ICT活用推進委員会において研修会を実施し、校内でICTの推進及び活用について共通理解を図る。また、校外で行われている研修会に積極的に参加し、他校の実践を本校の教育活動に生かす。 ・学部と寄宿舎と情報を共有し、全校でICTについての研修を深める。 ・学舎事務が連携した教育については、季節に応じた服装、TPOに応じた服装や身だしなみ等について、学舎で連携して指導及び支援を行う。 ・学部、寄宿舎、事務との連携については、事前確認や周知を丁寧に行い、適切な情報共有を図る。	
○保護者・地域との連携	・平均評価点3.47だった。 ・パートナーティーチャー派遣事業について、予算面の課題があがった。	・パートナーティーチャー派遣事業は、管内の小中学校等到大変ありがたい取り組みである。予算面の課題があるのならば、なんとか確保し、各校からの要請に応えられるようにしてほしい。(学校評議員) ・平均評価点3.49だった。(保護者)
改善方法	・パートナーティーチャー派遣事業については、管内の特別支援学校及び小中学校等と連携し、適切に実施することができるよう調整する。 ・保護者・地域との連携については、社会に開かれた教育課程の実現に向け、これまで以上に保護者や地域と連携した教育活動を推進することができるよう、ホームページや報道等の活用、参観日や公開授業研究会等による授業公開をとおして、広く本校の教育活動を紹介する。また、学校運営協議会において、地域と協働して取り組むことができる学習活動を探っていく。	
○児童生徒に向き合う時間を確保するための業務改善（働き方改革）	・平均評価点は3.27だった。 ・個別の指導計画作成に係る業務についての課題があがった。 ・効率的な会議運営、及び業務の明確化、適正化、精選について課題があがった	・会議は目的をもって参加するべきである。また、会議でどのような内容が協議されるのかを事前に把握することも大切である。(学校評議員) ・業務改善については、なぜ行うのかという意味を児童生徒に向き合う時間の確保と記しているのが分かりやすい。今後、業務を効率化した結果、どのように児童生徒と向き合うことができるよ

		うになったか、結果を知ることができるが良い。 (学校評議員) ・平均評価点3.47だった。(保護者)
改善方法	・個別の指導計画については、効果的な活用をねらい、教育課程検討委員会において様式や評価時期等の検討を行う。 ・起案文書について、管理職がワードやエクセル等で作成した鑑文、保護者向け文書、主に使用する公用文表記についての資料を作成しサーバーに保存している。そのデータを参考にして作成することで業務の効率化を図る。 ・文書は、個人のパソコンに保存するのではなく、サーバーに保存することを徹底し、効率的に作成することができるようにする。 ・データについては、各自のパソコンではなくサーバーに保存することを徹底し、誰が見ても分かりやすいよう、フォルダ内の整理を行う。	
公表方法	○学校評価結果を学校ホームページへの掲載。 ○保護者への令和4年度学校評価（アンケートの結果（教職員，保護者）の配付。	